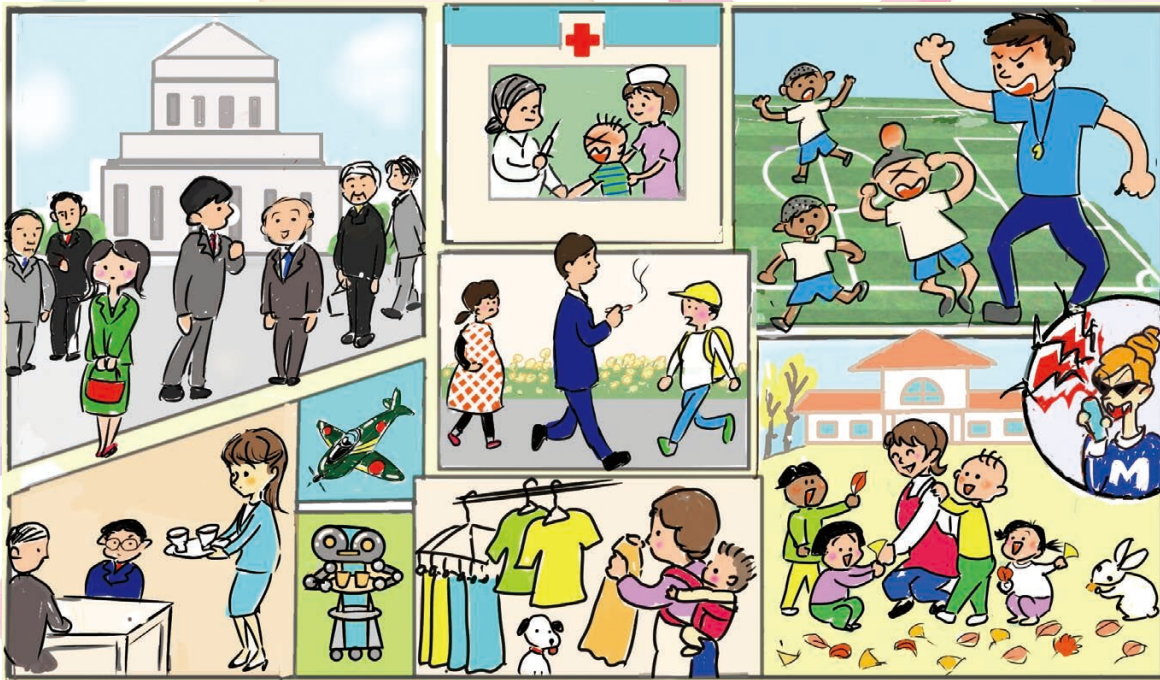


人権啓発資料

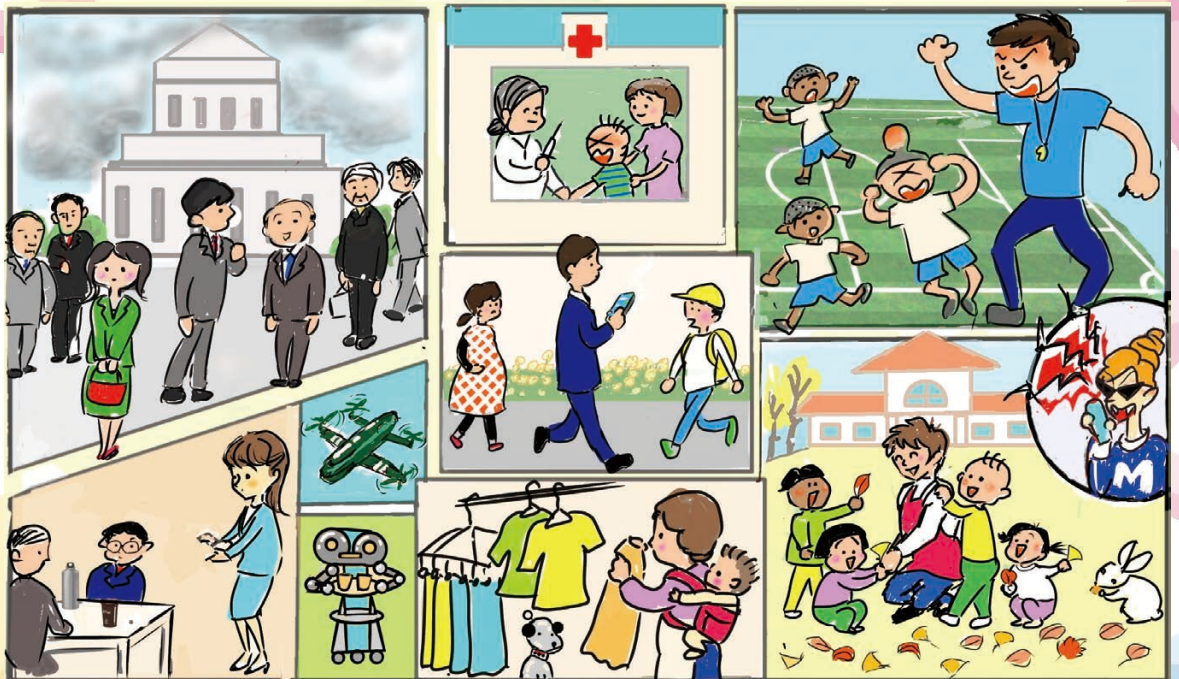
ふれあい

2025

昭和100年・戦後80年



まちがいさがし
絵のちがいは7つ、他にまちがった
行動がいくつかあります。



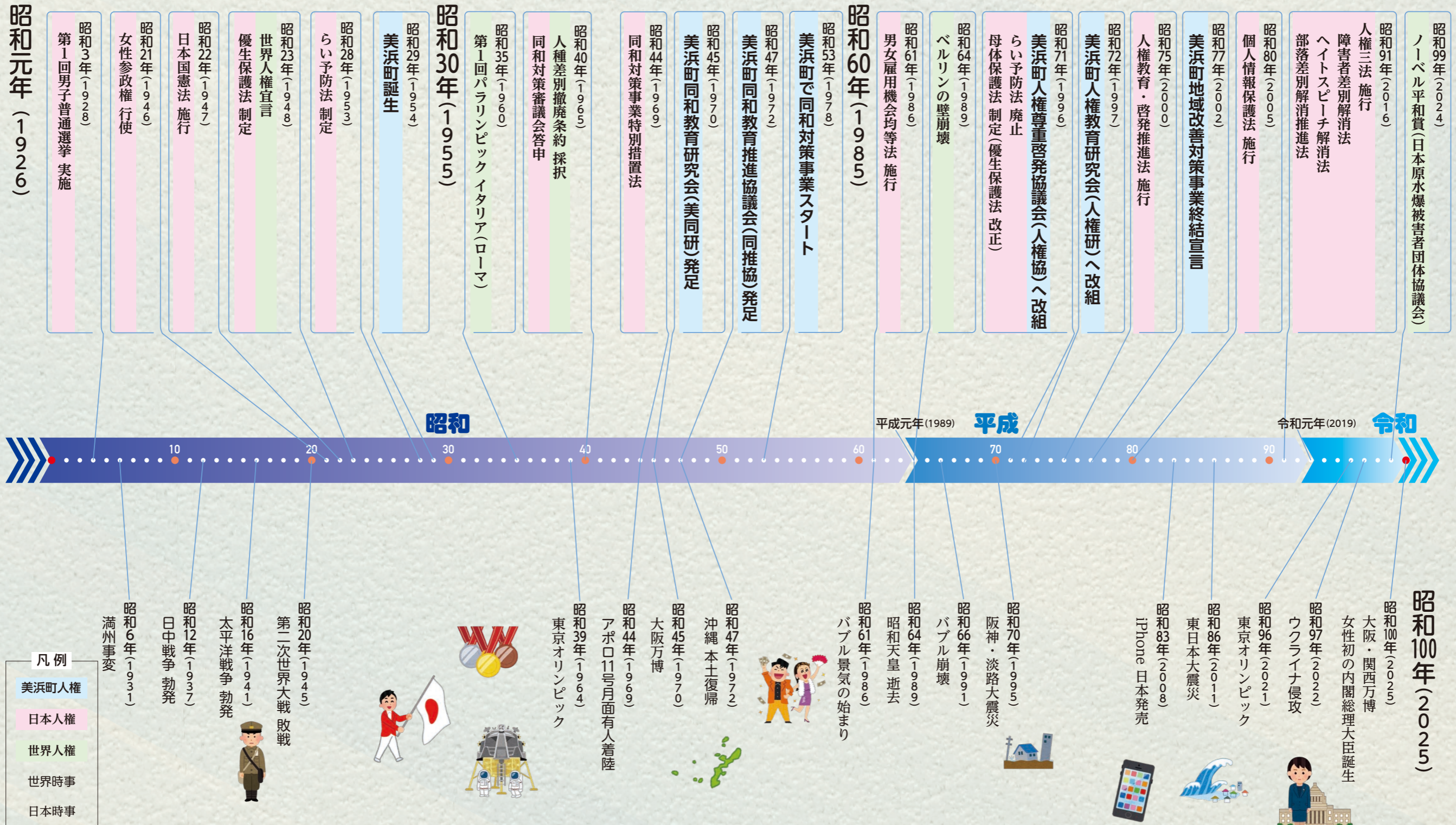
美浜町人権尊重啓発協議会

昭和100年(戦後80年)

この100年の間に、社会は大きく発展を遂げてきました。また、人々の権利も時代とともに大きく拡大してきました。

一方、未だに世界各地で戦争や紛争が続いています。また、新たな人権課題も生まれてきています。

この先、「世界」は、「日本」は、どのように変わっていくのでしょうか。



昭和100年

「3世代インタビュー」 町内のあるお宅で聞きました

Q 子どもの頃よくした遊び

A ビー玉、めんこ…近所の子たちとよく遊んでいた

80歳代男性

Q 子どもの頃なりたかった職業

A 野球選手、SLの運転手

80歳代男性

Q 50歳代女性

A おにごっこ、かくれんぼ、めんこ…学校終わり、地区の集会所で遊んだ

Q 50歳代女性

A お花屋さん、ケーキ屋さん

Q 20歳代女性

A 鬼ごっこ、一輪車

Q 20歳代女性

A お花屋さん

Q 今と当時の相違点

A 当時は貧しかったが、学校で過ごす毎日楽しかった。テレビよりラジオの生活。現在は、豊かになりすぎていると感じる(何でも物が手に入る、物であふれている)ので、低年齢の子でもゲームをしたりと生活形態がすごく変化したと思う。

80歳代男性

Q 50歳代女性

A 当時は電話もしくは直接会うという方法以外に人とつながるツールがなく、交換日記もしていたが、今はSNSでいろいろな人と繋がることができる。便利になった一方で、1人1人との結びつきは薄れていると感じる。

Q 20歳代女性

A 10年ほど前は、今よりもスマホやゲーム機を持つ子が少ない(持ち始める年齢が高かった)ので、外遊びする子が多かった。学年を超えてみんなで遊んでいた印象。

20歳代女性

Q 戦争への意識

A 当時、復員(※)してくる人が身近にもいて身をもって戦争を感じたが、戦争体験をしている人が減っている今、意識は薄れていると感じる。

80歳代男性

Q 50歳代女性

A 薄れている。小学校の頃、図書館で「はだしのゲン」を借りて読む子が多くいたり、家族(自分の祖父母)が戦争に行ったりして、自分の生活と結びつくことも多く意識も高かった。

Q 20歳代女性

A ニュースで終戦日を知らない子が増えていると言っていたり、家族内で話す機会も減り、経験談を聞く機会も減ったりしているので、意識は薄れてしまっている。自ら知ろうという意思や意欲がないと情報や知識も得ることが難しいと思う。平和が当たり前になっているので、普通の毎日に感謝しないといけないと思う。

20歳代女性

本の紹介

美浜町立図書館に置いてあります。

(町立図書館には、他にも戦争をあつかった本があります。)



『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
(著) 汐見夏衛

1945年、第二次世界大戦末期の日本にタイムスリップした現代の女子中学生・加納百合と特攻隊員の青年・佐久間彰との時空を超えた切ない恋の物語が描かれた作品。



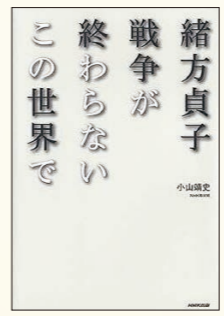
『戦争は女の顔をしていない3』
(作画) 小梅けいと
(原作) スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ

第二次世界大戦中のソ連とドイツが戦っていた頃の証言を集めた本のコミカライズ版。今巻はロシアとウクライナの戦いを想起させ戦争の悲惨さを際立てて感じる。原作者はノーベル文学賞受賞作家。



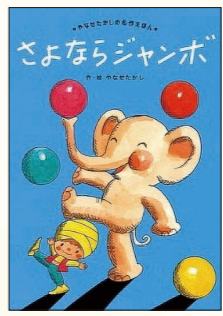
『杉原千畝 六千人の命を救った外交官』
小学館版学習まんが人物館

外交官・杉原千畝は、1940年リトアニアで、ナチスの迫害から逃れようとしたユダヤ人難民に、人道的立場から独断でビザを発給し、六千人を超える人々の尊い命を救った。人権と国際協定の時代の新たな旗手として高く評価された。



『緒方貞子 戦争が終わらないこの世界で』
(著) 小山靖史

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のトップを務め、“戦争が生み出した弱者”である難民を救うために、世界を駆け回った緒方貞子。その業績が今も国際社会で評価される、数少ない日本人リーダーの半生を、生い立ちから明らかにした話題作。



『さよならジャンボ』
(作) やなせたかし

南の国からやって来た、象のジャンボと象使いのバルー。小さな国で、みんな楽しく暮らしていましたが、ある日東と西の国の戦争に巻き込まれてしまいます。国民の命を守るため、王様はジャンボを殺そうとするのですが…。平和の尊さと命の重さについて問う、時を超えたメッセージ。

今も残る戦争の歴史と遺産

戦後80年、日本は戦争の当事者に立つことなく世代を重ね、戦争は遠い過去の「歴史」となりました。戦争体験は、語り部や石碑、映像や史資料等で記録され、戦争の歴史を後世に残す「遺産」となりました。

戦時中に造られ、戦後に姿を変えて再利用されたり、モニュメント的に残された「戦争遺構」もまた、都市の再開発等で急速に数を減らし、近年は文化財指定を受け、「遺産」として保存されるケースもみられます。

美浜町内に残る戦争遺構の一つに、「防空壕」があります。空襲から逃れるため、山裾の斜面や崖、家の地下を掘り抜いた防空壕は、戦後多くが埋没し、その数は判然としません。



平成17年(2005)1月1日付けの朝日新聞に、福井県内の防空壕痕跡を調査し、美浜町では当時八ヶ所確認されたという記事があります。最近では、美浜東小学校の児童が、佐田地区に残る二ヶ所の防空壕を見学したことがニュースになりました。



画像提供 MMネット

戦争を「歴史」と片付けるのではなく、残された「遺産」に触れて、後世に残し伝える事が求められます。

戦後80年を迎えて ～平和のありがたさを胸に～

2025年、第二次世界大戦の終結から80年を迎えました。今、私たちは長い平和の中で暮らしています。戦争を知らない世代が国民の大半を占めるようになり、日常の「平和」は当たり前のように感じられるかもしれません。

しかし、世界に目を向けると、いまだに戦火が絶えません。ウクライナや中東などでは、多くの人々が故郷を追われ、命を落としています。平和の尊さを知る私たち日本人だからこそ、その現実を他人事にせず、平和を願い続ける責任があります。

戦後80年という節目は、過去の犠牲の上に築かれた現在の平和を見つめ直す機会でもあります。次の世代へこの平和を引き継ぐために、私たち一人ひとりが思いやりと対話を大切にし、争いのない世界を目指して歩んでいきましょう。



【まちがいさがしの答え】

- ①国会上空→暗雲（議員の男女比は相変わらず…）
- ②ナースキャップ→かぶっていない ③なし（体調が×）
- ④茶碗でお茶出し→マイボトル ⑤零戦→軍用ドローン
- ⑥歩きたばこ→歩きスマホ ⑦犬→ロボット（家事負担の男女比も×）
- ⑧保育士さんが女性→男性 ⑨なし（モンスターペアレントが×）

「50年後のミライ」について、中学生に聞いてみました

50年後、戦争のない平和な世界になっていると思いますか。どうしてそう思いますか。

僕は50年後、戦争のない平和な世界になっていると思います。

第二次世界大戦で広島や長崎に原爆が落とされ、人々がその悲惨さを分かりあっているから、これからは戦争のない平和な世界になると思います。世界中の人々が戦争の恐ろしさを知ることが大切だと思います。戦争の恐ろしさなどを少しでも伝えることで生きやすい社会になると思います。

(美浜中3年 T.H)

50年後、今よりも生きやすい社会になっていると思いますか。どんな点が生きやすい（生きにくい）社会になっていると思いますか。

私は50年後、今よりももっと生きやすい社会になっていると思います。

理由は、お互いの個性を認め合って生きていく、そんな世の中になりつつあると日々感じているからです。

例えば性別にとらわれずに生きている人が増えていたり、同じ性別の人を好きになっていたりしても、私は一人の人間として素敵だなと思います。

(美浜中3年 O.S)

50年後、美浜町はどんな町になっていると思いますか。また、どんな町になってほしいと思いますか。

私は50年後の美浜町が、誰が見てもきれいと思える自然あふれる美浜町であってほしいです。

美浜町には、海、山、花、川、湖など自然がたくさんあります。海の周りのごみが無くなれば、もっともときれいな海になると思います。その良さを生かしたまま美浜町が発展したら嬉しいです。そのためにも、地域の人たち全員で協力して活動できたらいいなと思います。日本のどこへ行っても、やっぱり美浜町っていいなと思えるふるさとになってほしいです。

(美浜中3年 M.R)





みんなの笑顔が
MIHAMA
かがやく美浜

